

都議会自民党 活動レポート

小松ダイスケ

東京都議会議員
(世田谷区選出)

【小松大祐 プロフィール】
東京都議会議員(2期)。昭和52年7月30日
世田谷区生まれ。国士館大学体育学部を
卒業後、民間企業(6年)、会社経営(3
年)を経て、世田谷区議会議員(1期)。
早稲田大学大学院公共経営研究科修了。

【所属】 都議会自民党政調会長代行
総務委員会 理事

地域課題の 取り組み状況 一例紹介

事務所へのお電話やメール、LINE、時には地元区議会議員を通じて日々区民の皆様から様々なご相談を頂いております。昨年は新型コロナ対策関連の問い合わせが殺到致しました。一方、コロナ禍における新しい生活様式が始まり、生活面や街づくりについての改善要望も多く寄せられた一年でもありました。

都営八幡山アパート周辺の 通学路の安全性確保のため、 道路計画の見直しを行いました



八幡山アパートの建替工事に伴う道路整備。利便性向上や防災機能など道路の役割はありますが、隣接する保育園・小中学校に通う子供達の安全性確保と両立できる計画へと、都・区・警察など関係機関とルールを詰めています。



生態系の保全と両立した 野川流域の豪雨対策を 進めています



調布市・狛江市と世田谷区の境を流れる野川は自然が残された美しい風景も魅力です。一方、近年激甚化する台風による洪水対策もまったなし。地域住民、専門家の方を交えながら、生態系の保全と両立した河川整備を進めています。



原宿表参道にて スマートゴミ箱を 30箇所に設置



観光客の増加により急増したゴミの問題を、「広告×テクノロジー」で解決を目指した取組みをお手伝いしました。ソーラー電池でゴミを約60%に圧縮。維持管理費は広告収入で賄うという新たなモデルは、全国の観光都市から問い合わせが殺到しています。



2種類の成城ビールで 地域の緑や住環境の 保全に挑戦



成城・砧地域の飲食店さんが中心となり、2種類の「成城ビール(クラフトビール)」の売上の一部を積み立てて、(一財)世田谷トラストまちづくりの活動に寄附。良好な住環境の保全に役立ててもらおうという地域貢献の取組がスタートしました。

都内小中学校の オンライン化対応を 進めています



文科省が一人一台端末を掲げ、都も今年度中には全ての児童生徒に配備が完了する予定です。通信環境が脆弱な校舎への改修工事や、特別支援学校への導入などについても同時に進めています。



荒玉水道道路 (都道428号線) 歩行スペースを確保



通称「荒玉水道道路」は、杉並区から世田谷区喜多見に至る特例都道です。当該箇所はフェンスが突出し、車道に出なくては歩行できませんでした。区と都の協議により今年度中に既存のフェンスを撤去し、歩行スペースを確保します。



世田谷区内における 都市整備事業の 進捗報告

将来的な街の発展、大規模災害に耐えうる強靱な街づくりなど、多面的な機能を果たすべく大型の都市整備事業が進んでいます。いづれの事業も、国・都・区がそれぞれの役割を担っています。その多くが十年以上を要する長期的な取り組みですが、完成に向けて引き続き取り組んでまいります。

補助54号線(上祖師谷地区)

都市計画道路補助第54号線は、昭和21年に都市計画決定された渋谷区富ヶ谷2丁目から世田谷区上祖師谷5丁目までの、延長約8950メートルに及ぶ道路です。数回の計画変更を経た後、平成15年1月に現在の計画となりました。

現在、整備率は99%まで至りました。現在は、信号機や横断歩道の設置箇所、交通ルールなどを警察・都・区で協議をしています。区が主催した昨年の街づくり意見交換会では模型も展示されました。紙の図面に比べ格段にイメージしやすく、毎年実施している勉強会も大変好評でした。



京王線連立事業

この事業は、京王線の笹塚駅～仙川駅間約7.2kmの区間を高架化することにより、25箇所の踏切を除却するとともに7箇所の都市計画道路を立体化し、あわせて側道を整備するものです。

2013年度よりスタートして、いよいよ9年目を迎えましたが、地域に暮らす多くの方々から「いつ完成するのか・・・」との声も寄せられています。現在までの面積ベースの土地取得率の推移は以下の図の通りです。

また、この事業により代田橋駅・明大前駅(京王線)・下高井戸駅・桜上水駅・上北沢駅・芦花公園駅・千歳烏山駅は高架駅となります。

(年度)					
H26末	H27末	H28末	H29末	H30末	R1末
31.0%	39.8%	46.9%	54.4%	60.3%	68.4%

それぞれ駅間毎の工区によって、取得状況は約50%～80%まで差があります。



東京都における新型コロナウイルス対策の取組について

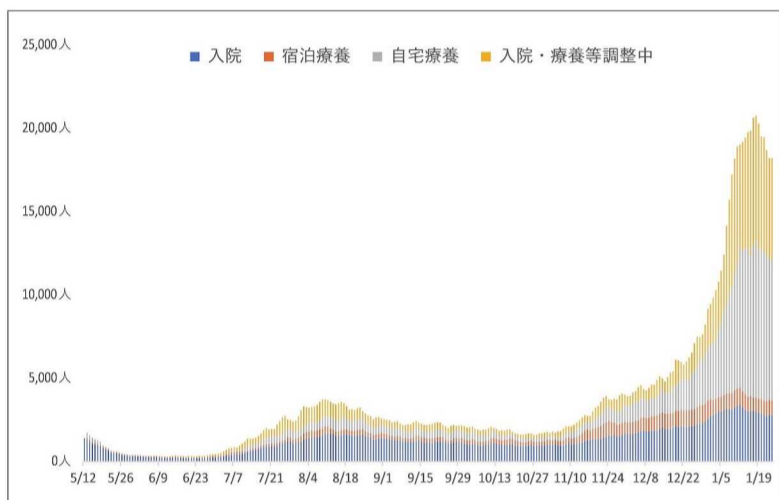
●東京都が取り組んできた支援策について

・コロナ対策予算 **2兆490億円**

<主な内訳>

- ・中小企業制度融資7,165億円
- ・感染拡大防止協力金3,758億円
- ・テレワーク活用促進緊急支援447億円
- ・家賃等支援給付金の支給440億円
- ・患者受入に向けた空床確保料補助1,955億円
- ・生活福祉資金の貸付1,773億円
- ・医療従事者等への慰労金953億円
- ・介護・障害・児童施設等の感染症対策支援459億円

●療養者数の推移(東京都)



上記のグラフは昨年5月12日より、今年1月24日までの推移です。昨年12月以降の新規陽性者数の増加により、どの項目も増加しましたが、特に「自宅療養」と「入院・療養等調整中」の方が激増していることが分かります。また、今年に入り重傷者数も100名を上回る状態が続いております。

宿泊施設の確保を進めておりますが、安全な環境を保持するために欠かせない医療従事者の確保が厳しくキャパシティの拡大が難航しています。同様に、自宅療養者についても家族への感染や職場・学校への影響など心理的負担も大きく、メンタルケアも重要です。

都はこれまでも電話相談などで、専門相談員による対応を行ってきましたが、特に若者世代は電話の使用が極端に少なく、SNSやチャットを活用した対応の拡充が急務です。政府もこうした社会背景を踏まえ、相談ツールの最適化を図ることが示されました。

●新型コロナウイルスワクチンの接種について

<基本設計・役割分担>

- ・厚生労働大臣の指示のもと、都道府県の協力により、区市町村において予防接種を実施する。
- ・原則、**居住地(住民票所在地)**で接種を受ける。
- ・接種場所は、医療機関・区市町村が設ける会場。
- ・**費用はかからない**

<供給計画・接種スケジュール>

・2021年前半までに全国民分の数量の確保を図る。現在、2億9,000万回分の供給について合意。(2020.12.18時点)ということが示されましたが、様々なことが調整中であり、今後も変更される可能性が高い。

	開発企業	1～3月	4～6月	7月以降
米国	ファイザー	6000万人分		
	モデルナ	2000万人分		500万人分
英国	アストラゼネカ	1500万人分	4500万人分	

<接種順位の考え方>

- ①医療従事者(2月下旬～)
- ②65歳以上の高齢者*3600万人(3月下旬～)
- ③高齢者施設等の従事者*200万人+成人で基礎疾患を有する者*820万人
- ④上記以外の者の順で順次接種を予定



令和元年度各会計決算特別委員会について 2020.10

(意見書概要)

令和元年度東京都一般会計決算は、歳入総額7兆6,717億余円に対し、歳出総額は7兆4,446億余円となった。また、16の特別会計の決算額合計は、歳入総額5兆7,659億余円に対し、歳出総額は5兆4,107億余円であった。さらに、財政構造の弾力性を示す指標である経常収支比率については、平成30年度から3.1ポイント改善し、74.4%となった。

令和元年度決算は、都税収入が前年度と比べて1,854億円増加し、8年連続の増収となった。都財政は引き続き健全な状況にあると言える。一方で、新型コロナウイルス感染症は、我が国の経済や都民の暮らしに深刻な影響を及ぼしている。収束の見通しは立っておらず、今後の都財政は大変厳しい局面を迎えることが見込まれる。また、歳入の根幹を成す

都税収入が景気変動の影響を大きく受けやすい不安定な構造にあることから、様々な経済指標を踏まえ、今後の税収減を想定するべきである。このような中、感染症対策を始め、東京2020大会の成功と大会後の持続的成長を実現するための施策を展開するとともに、大規模災害への備えや人口減少・少子高齢化への対応、更に都政のデジタル化を含めた東京の構造改革など、膨大な財政需要に対応する必要があり、そのための財政基盤を堅持していかなければならない。

このため、新公会計制度を一層活用しながら、既存の施策に対する事業評価によって無駄の排除を徹底するなど、効率的な都政の執行により、引き続き堅実な財政運営に努めることを強く要望するものである。

都政に関するご意見、ご要望をお聞かせください

小松ダイスケ 東京都議会議員事務所

TEL:03-5314-9577 FAX:03-5314-9573

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-38-10-201 E-mail:daisuke.komatsu@gmail.com